

# 新しい領域構成に基づく内容の構成は、どうなったか。

## 1 A 物質・エネルギー

(1) 身近な自然の事物・現象の多くは、時間、空間の尺度の小さい範囲内で直接実験を行うことにより、対象の特徴や変化に伴う現象や働きを、何度も人為的に再現させて調べることができやすいという特性をもっているものがある。子どもは、このような特性をもった対象に主体的、計画的に操作や制御を通して働きかけ、追究することにより、対象の性質や働き、規則性などの見方や考え方を構築することができる。主にこのような対象の特性や子どもの構築する見方や考え方などに対応した学習の内容区分が「A物質・エネルギー」である。

なお、本内容区分は、基本的な考え方において、現行の「B物質とエネルギー」を引き継いでいるものである。

(2) 「エネルギー」、「粒子」といった科学の基本的な見方や概念は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、小・中・高等学校を通じた理科の内容の構造化を図るために設けられた柱である。

(3) 小学校及び中学校を通じた「エネルギー」「粒子」を柱とした内容の構成は、それぞれ図1-1、図1-2のようになっている。

※ 内容構成表については、以下の該当箇所をクリックしてください。



図1-1



図1-2

## 2 B 生命・地球

(1) 自然の事物・現象の中には、生物のように環境とのかかわりの中で生命現象を維持していたり、地層や天体などのように時間や空間のスケールが大きいという特性をもったりしているものがある。子どもは、このような特性をもった対象に主体的・計画的に諸感覚を通して働きかけ、追究することにより、対象の成長や働き、環境とのかかわりなどの見方や考え方を構築することができる。主にこのような対象の特性や子どもの構築する見方や考え方などに対応した学習の内容区分が「B生命・地球」である。

なお、本内容区分は、現行の「A生物とその環境」、「C地球と宇宙」を基本的な考え方において引き継いでいるものである。

(2) 「生命」、「地球」といった科学の基本的な見方や概念は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る観点から、子どもたちの発達の段階を踏まえ、小・中・高等学校を通じた理科の内容の構造化を図るために設けられた柱である。

(3) 小学校及び中学校を通じた「生命」「地球」を柱とした内容の構成はそれぞれ図2-1、図2-2のようになっている。

※ 内容構成表については、以下の該当箇所をクリックしてください。



図2-1



図2-2